<就職先企業アンケート調査 実施概要>

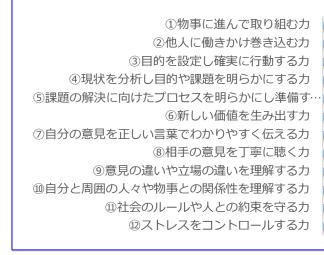
【調査の概要】

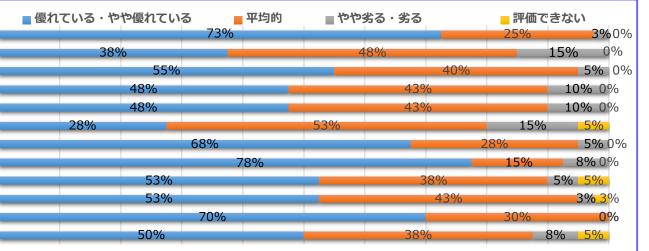
- 1.目 的 本学の教育課程において、基礎的な学力(教養・知識)を身につけ、その学力を基に判断力・思考力・表現力等を 養い、社会の変化に対応しながら、主体的に行動し社会で活躍できる人材育成が不可欠である。 本調査の実施により、大学に対する企業からの評価(社会的評価)や本学へのニーズ等を測り検証し、今後の教育 研究活動や就職支援の改善に資することが目的である。
- 2. 調査対象 2022年3月卒業した学生が就職した主な企業 52社、54名対象(内無効回答7社、8名)
- 3. 調査時期 2022年7月20日発送 8月30日締切
- 4. 調査方法 郵便で配布し、郵便・FAXで回収(アンケート用紙と返信用封筒を同封。未提出企業には電話にて依頼。)
- 5. 回 収 率 企業 86.6% (39社/45社) 就職者 86.9% (40名/46名)
- 6. 質問項目 (1) 社会人としての基礎的な能力「12項目」
 - (2) 知識・教養・技能「7項目」
 - (3) 外国語運用能力「3項目」
 - (4) 採用にあたって、どのような点を重視されますか「5項目」
 - (5) 学生生活を通じた人間形成について、本学はどの分野の支援を充実させることが望ましいと思われますか (5項目の中から3つ選択)
 - (6) その他、ご意見、ご要望などの自由な意見
- 7. 就職先企業訪問による主なヒアリング結果(過去3年間)

【調査結果の要約】

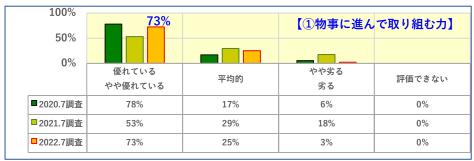
(1) 社会人としての基礎的な能力

2022年7月調查分

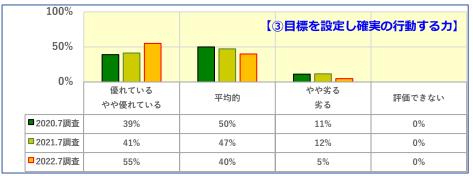




«過去3年間の比較»



100%			【②体】1-無七	小儿类 老刀 小
50%			【②他人に割さ	かけ巻き込む力】
0%				
0,0	優れている	平均的	やや劣る	評価できない
	やや優れている		劣る	
■2020.7調査	39%	56%	6%	0%
■2021.7調査	47%	47%	6%	0%
■2022.7調査	38%	48%	15%	0%



100%		【④現状を分析	「し目標や課題を明	月らかにするカ】
50%				
	優れている やや優れている	平均的	やや劣る 劣る	評価できない
■2020.7調査	39%	50%	11%	0%
■2021.7調査	41%	29%	29%	0%
□2022.7調査	55%	40%	5%	0%

100%				
			【⑥新しい価	値を生み出す力】
50%				
0%			15%	
070	優れている	平均的	やや劣る	評価できない
	やや優れている	— 一种的	劣る	計画できない
■2020.7調査	50%	44%	6%	0%
■2021.7調査	41%	47%	6%	6%
□2022.7調査	28%	53%	15%	5%

100%	[5]	課題の解決に向けた	こプロセスを明らか	かにし準備する力
50%				
0%	優れている やや優れている	平均的	やや劣る 劣る	評価できない
■2020.7調査	44%	50%	6%	0%
■2021.7調査	41%	35%	18%	6%
□2022.7調査	48%	43%	10%	0%
100%				

100% 50%	78%		【⑧相手の意見	を丁重に聞く力】
0%	優れている やや優れている	平均的	やや劣る 劣る	評価できない
■2020.7調査	78%	17%	6%	0%
■2021.7調査	41%	53%	6%	0%
□2022.7調査	78%	15%	8%	0%

100%	con/	「②白公の音目をす	Eしい言語で分かり	やオノ <i>に</i> ラスカ
50%	68%		こので言語でカがり	7.9 (12.87)
0%	優れている やや優れている	平均的	やや劣る 劣る	評価できない
■2020.7調査	50%	44%	6%	0%
■2021.7調査	35%	53%	12%	0%
□2022.7調査	68%	28%	5%	0%

100%				
50%		⑩自分と周囲の人	、々や物事との関係	性を理解する力】
0%				
070	優れている やや優れている	平均的	やや劣る 劣る	評価できない
■2020.7調査	61%	33%	6%	0%
■2021.7調査	53%	35%	12%	0%
□2022.7調査	53%	43%	3%	3%

100%				
50%		【⑨意見	見の違いや立場の遺	いを理解する力】
0%				
070	優れている やや優れている	平均的	やや劣る 劣る	評価できない
■2020.7調査	67%	28%	6%	0%
■2021.7調査	53%	29%	18%	0%
□2022.7調査	53%	38%	5%	5%

100%		(@	ストレスをコント	ロールするカ】
50%				
0 /6	優れている やや優れている	平均的	やや劣る 劣る	評価できない
■2020.7調査	56%	28%	17%	0%
■2021.7調査	47%	53%	0%	0%
□2022.7調査	50%	38%	8%	5%

100%				
50%	70%	【⑪社	と会のルールや人と	の約束を守る力】
0%				_
	優れている やや優れている	平均的	やや劣る 劣る	評価できない
■2020.7調査	72%	22%	0%	6%
■2021.7調査	59%	24%	18%	0%
□2022.7調査	70%	30%	0%	0%

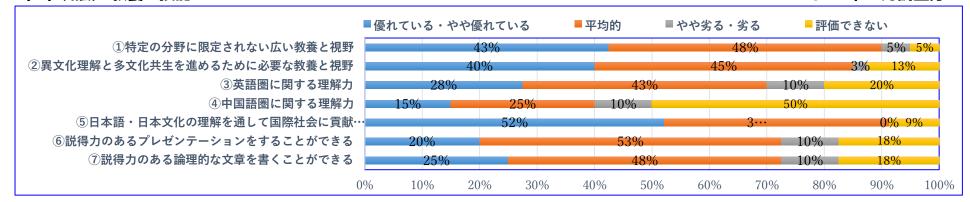
- ・社会人としての基礎的な能力は、地域社会や職場のなかで多様な人々と共に仕事を行っていく上で、自らの能力を最大限発揮し普遍的に求められる社会人としての基礎スキルが社会人基礎力であり、その基礎力は
 - a 主体性・働きかける力・実行力で構成される 「前に踏み出す力 (アクション)」
 - b 課題発見力・計画力・創造力で構成される 「考え抜く力 (シンキング)」

られる。今後の社会人経験を重ねるに従い改善できると思われる。

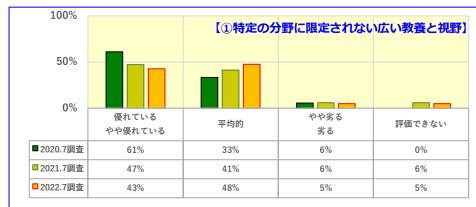
- c 発信力・傾聴力・柔軟性・情況把握力・規律性・ストレス抑制力で構成される 「チームで働く力(チームワーク)」 の3つの能力とそれの伴う12の能力要素(上記グラフ①~②)から構成されている。
- ・「前に踏み出す力(アクション)①②③項目」は、組織のなかで、仲間と協力しながら粘り強く仕事に取り組む力のことをいいます。この項目の中で、優れていると評価を得たものは、①「物事に進んで取り組む力」であり、回答頂いた 73%の企業から高評価を得ている。本学学生は、指示を待つのではなく、自ら積極的に行動する姿勢を表している。また、困難な仕事もチームで互いに協力することで乗り越えやすくなることを意味している項目③の「目標を設定し確実に行動する力」については、57%(昨年 41%)で昨年と比較し、良い評価を頂いている。ただ、②「他人に働きかけ巻き込む力」では、「やや劣る・劣る」が 15%と高くなっている。考察すると学生時代は、仲の良い人間関係を築けている人と接することが多く、社会人になると考え方や立場等の違う人を巻き込むことが少ないことに起因しているものと考え
- ・「考え抜く力(シンキング)④⑤⑥項目」は、問題発見力、計画力、創造力の要素で構成され、何ごとにも疑問を持ち考え抜く力であり、改善するための課題解決策を見つけるためのプロセスを明確にして、実践できる力であり、本学学生は、全ての項目で平均的以上の評価を得ているが、「⑥新しい価値を生み出す力」の評価に「やや劣る・劣る」が 15%と若干高く気になるが、学生生活を送るなかで「常識にとらわれず、どうしてこうなるのか」を日々意識しながら生活する習慣を持っことで改善が図られると思われる。
- ・組織内グループや多様な人々と目標に向けて協働・協力する力を示す「チームで働く力(チームワーク)」⑦⑧⑨⑩⑪⑫項目に於いては、本学学生の評価は、総合的には良い評価を得ている。特に⑦・⑧・⑪の項目で「優れている、やや優れている」が70%台を占め評価は高い。この項目は、自分の意見を的確に伝え、意見や立場の異なるメンバーも尊重し、多様な社員と共に目標に向けて協力するコミュニケーション能力を示している。

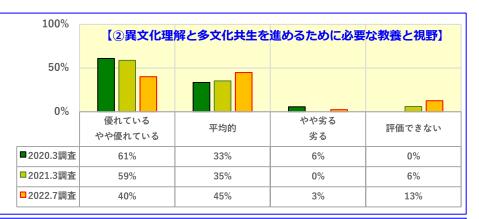
以上の3つの基礎力のなかで、企業が特に求める能力は「前に踏み出す力」を重視している傾向が強いので、今後の大学教育においては、主体性、実行力、課題発見力を向上させ将来のビジョン・目標などを立てられる能力を養う教育が更に望まれる。

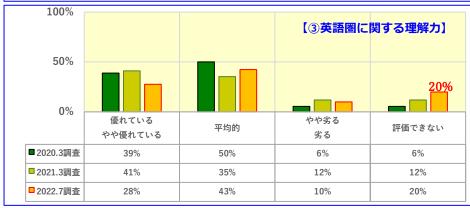
(2)知識・教養・技能 2022 年 7 月調査分



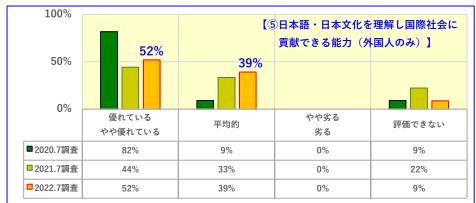
《過去3年間の比較》

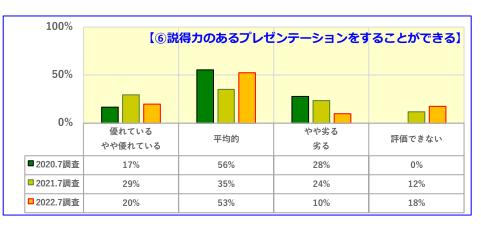


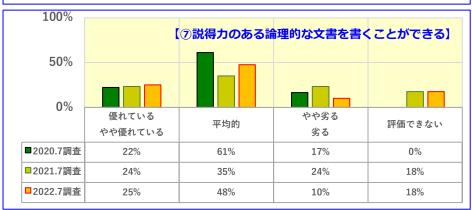






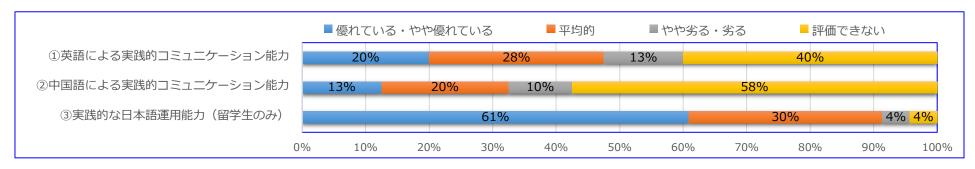




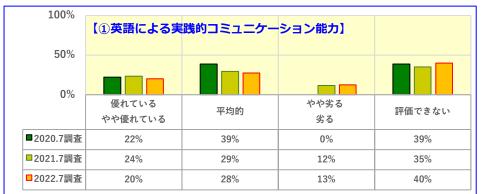


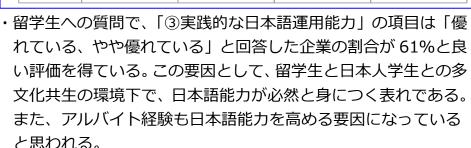
- ・知識・教養・技能の分野では、概ね良い評価を得ている。その中で「②異文化理解と多文化共生を進めるために必要な教養と視野」と「①特定の分野に限定されない広い教養と視野」について、平均的以上と評価した企業は 90%程ある。この背景には、本学は留学生が多数在籍し、常に多言語が飛び交い異文化で育った留学生と交流を深められる環境下であり、自然に幅広い国際力と教養が身につけられていると思われる。
- ・更に本学の学びは、一般教養や専門分野からの知識習得のほかに、本学の特色として、現代文化・古典文化・歴史の視点から学びを深めている。また地域に根づいた「信長学·犬山学·小牧学·道プログラム」の学びも起因すると思われる。
- ・昨年と比較し改善した項目は、「⑥説得力のあるプレゼンテーションをすることができる」と「⑦説得力のある論理的な文書を書くことができる」で「やや劣る・劣る」10%(昨年24%)と減少している。このことは、本学で継続的に実施している能動的に学修する「グループディスカッション、グループワーク、ディベート体験等」のアクティブ・ラーニングの推進が向上策の一助になったと考えられる。
- ・留学生対象の「⑤日本語・日本文化の理解を通して、国際社会に貢献できる能力」については、平均的以上と評価した企業は90%以上であり良い評価を得ている。この要因も上記で記述したことが大きな要因であると考察できる。

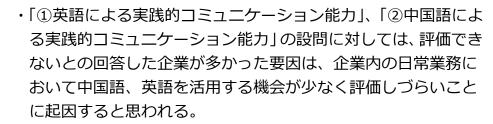
(3)外国語運用能力 2022 年 7 月調査分

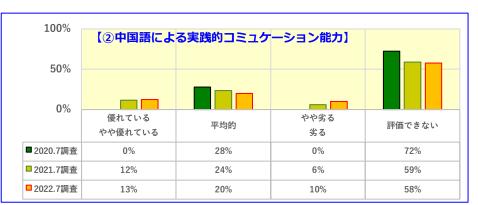


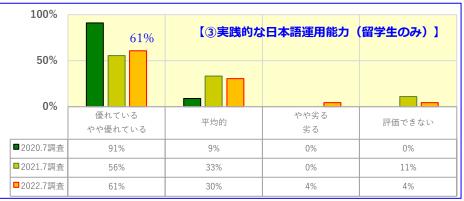
《過去3年間の比較》





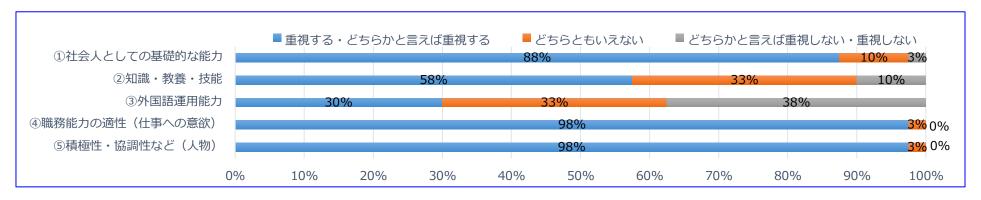




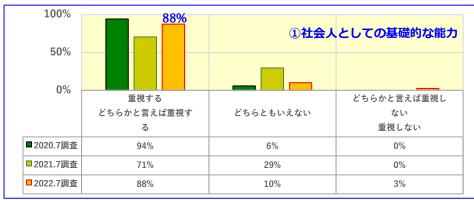


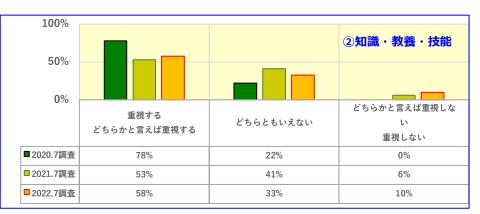
(4) 採用にあたって、どのような点を重視されますか。

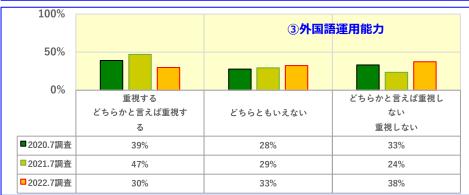
2022年7月調査分



«過去3年間の比較»

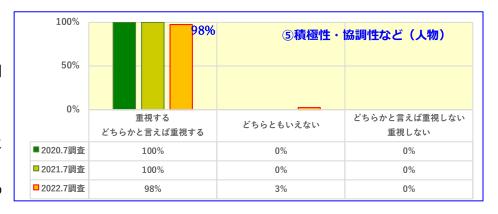






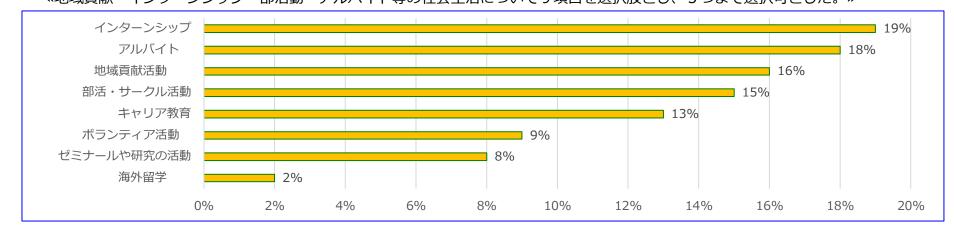
50%	98%	④職務能力の適	性(仕事への意欲)
0%	重視する どちらかと言えば重視す る	どちらともいえない	どちらかと言えば重視しない 重視しない
■2020.7調査	94%	0%	6%
■2021.7調査	100%	0%	0%
□2022.7調査	98%	3%	0%

- ・採用にあたって、企業が重視する点として「①社会人としての基礎的な能力88%(昨年71%)」、「④職務能力の適性(仕事への意欲)98%(昨年100%)」、「⑤積極性・協調性(人物)」98%(昨年100%)」の3要素に力点を置いていることが分かる。
- ・外国語運用能力の項目は、「重視する、どちらかと言えば重視する」との回答が30%(昨年47%)と低めな評価であるが、日常業務は勿論、グローバル化が急速に進んでいる現状のなかで語学力の基礎を身につけてほしという表れである。

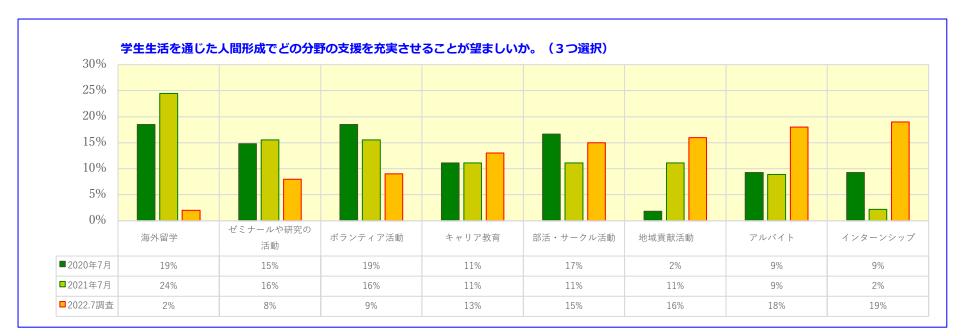


反面、「どちらかと言えば重視しない、重視しない」が、38%(昨年 24%)で必ずしも肯定的ではない回答もあるが、コロナ禍で海外需要が減少したことも要因の一つと思われる。外国語教育は、今後も大学における学修として継続的に学ぶことが求められていると思われる。

(5) 学生生活を通じた人間形成について、どの分野の支援を充実させることが望ましいと思われますか。 2022 年 7 月調査分 «地域貢献・インターンシップ・部活動・アルバイト等の社会生活について 9 項目を選択肢とし、 3 つまで選択可とした。 »



上記項目以外のその他回答・・金銭感覚(実務的な)・留学生に関しては、日本語能力向上



《過去3年間の比較》

- ・回答のうち、上位を占める項目は、「インターンシップ」、「 アルバイト」、「 地域貢献活動 」、「部活・サークル活動」 が上位を占めている。
- ・昨年と比較し大きく変化した項目は、「インターンシップ」と「アルバイト」を選択する企業割合が高く、学生時代に企業や仕事に触れ合える貴重な体験と実際に働くことで、社会の機微を知り、対人交渉能力や責任感、社会性等を養いで社会経験を積んでほしいとの表れである。
- ・「部活・サークル活動」は、組織のなかで上下関係を学びながら一つの目的・目標に向かって、他者と協働し物事を進める力を身につけられると企業は判断している。
- ・本学としては、地域社会とりわけ地元に貢献する大学として「地学地就」すなわち、地元の大学で学び、地元自治体や企業への就職を通じて地域の活性化に寄与する人材の育成を目指していくことが大切であり、そのために地元企業のインターンシップへの参加や地元企業人、公的機関の人事担当者を招いたキャリア講座の開催、更には自治体等が行う地域貢献活動やボランティア活動へ積極的に参加することが必要であると思われる。

(6) 大学への意見、要望や採用した学生に対するコメント(抜粋)

- ・入社して頂き、我が社へ非常に貢献して頂いております。(留学生)
- ・積極的に採用強化しています。貴校生徒との接点を設けて頂ける機会がありましたら幸いです。
- ・教育を目指す学生に学校現場を体感する機会をできるだけ多く設定して下さい。そこに積極的に参加を希望する姿勢を持っ方を現場は待っています。
- ・新入社員のフォロー研修にて進捗状況を確認しましたが、大変前向きに業務へ取組み入社3か月ながらも獲得に勤しんでくれています。
- ・アンケートの質問項目が高度な感じがします。入社3,4カ月にて評価できる内容でないですね。回答する側としては胸が痛みます。逆に言えば、こういう人材を育てれば良いのかと教えて頂きました。(留学生)
- ・大変優秀な方です。人柄も素晴らしく、即戦力として活躍頂いています。ありがとうございます。(留学生)
- ・採用した学生は、好成績を残されとても優秀な方です。今後ともよろしくお願します。
- ・什事に対する姿勢が積極的で助かっています。今後共宜しくお願い致します。
- ・入社して頂いた方は、自らのキャリアプランを考え、そのために目標をたてて実践できる方だと思います。
- ・考え方が、まだまだベトナム人よりになる傾向がある。会社側の意見が言える様、教育を進めていきたい。(留学生)
- ・ 一部門のリーダーとして教育中。意見・指示がはっきり言え、今後期待する人物である。(留学生)
- ・仕事に慣れだして楽しく取り組んでおります。

就職先企業訪問による主なヒヤリング結果(過去3年間)

今回行ったアンケート調査を補完するため、就職先企業訪問を実施し、本学卒業生の勤務状況・採用満足度や採用にあたって学生に求めることなどを企業の採用担当者にヒアリングを行い、企業が求める人物像の深掘りを行った。

《2020 年 3 月卒業生》

- ・真直ぐな人柄で「日常の挨拶、感謝、お礼の言葉、約束を順守する」などの基礎的能力を持ち自己成長すると言う考えを持っている人材。
- ・パワーポイント、パソコン操作、ZOOM利用等のICTリテラシーを操作できるスキルを持つ人材。
- ・人柄・人間性がメイン。「元気に挨拶ができる」「場の雰囲気を読み取れる」等、総合的にはコミニュケーション能力がある人材に尽きる。
- ・将来のビジョン・目標などを立てる能力や自主的、能動的な姿勢で取り組む能力を身につけることが出来る教育に期待したい。
- ・人を信じられる人であること。人と一緒に動けること。愛される人であること。この3点は重視して採用している。
- ・画一的でなく個性がある人を求めている。加えて、主体性を発揮して自分が何をすべきなのかを考えながら行動できる学生が欲しい。
- ・コミュニケーション力と目標設定して動けるかを重視している。飲食店だから体力でその場をしのぐ仕事をする人は求めておらず、入社 後のビジョンをしっかりと持って、それに向かって仕事ができる人を求める。

《2021年3月卒業生》

- ・社員に求めることは、言われたことだけではなく、自分から能動的に動ける人材を求める。「先を見て過去を振り返りながら仕事に傾注できる」ことが大切と考える。
- ・仕事を選択するなかで、大学の専攻分野に合う業種選択は必要であるが、就活に際して、業種を絞らず幅広く色々な業種に興味を持って チャレンジして頂きたい。
- ・何事にも自分から積極的に行動でき、謙虚で素直な人材を求めている。
- ・自分を知っていると思っていても意外と知らない部分があるので、自己分析ができる人材が大切である。また、分からないことを分からないと言えるとハッキリ言える人材になって欲しい。
- ・主体性をマストとしている。また、通信業界としては、情報収集力がもっとも重要であり、インターネットからの情報は勿論であるが、 現地現物ができる人材を求めている。
- ・留学生に求めることは、漢字の読み書きができること。基本的な業務は接客であるので、コミュニュケーションをスムーズに取ることができることが必要。日本語の助詞や接続詞を間違える留学生が多い。このことは、接客業に於いては、言葉のニュアンスの違いでミスコミュニュケーションが起こってしまうため。
- ・留学生を採用にあたっては、積極性があり、社会に通じる日本語能力(N2以上)やエクセル・ワードができ更には漢字の読み書きができる人材を望む。

《2022年3月卒業生》

- ・自己肯定感を持ち自信をもって仕事に邁進する学生を望む。社会性のある学生は、即戦力として活躍できるので、大学の教育に於いては 社会人基礎力を発揮できる学生を育ててほしい。
- ・仕事に於いて分からないままにせず、自分から積極的に聞く姿勢が大切。自ら行動できる人材。3年生の夏から就活を起動する学生を最 優先に採用するように心掛けている。
- ・業界のルールや会社の方針、風土・風習に違和感なくなじめる留学生を望む。また、日本のビジネスマーナーに早くなじめることが大切。
- ・留学生は、母国と日本の文化が違うため、自己都合で物事を決めることが多い。「時間にルーズ」、「連絡しても返事がない」など日本のルール、マナーを大学時代にしっかりと学ぐことが必要。また、就活に際して「学校、留学生、企業」との関係性を教えることも重要と思う。日本人学生に求めることは、どんな仕事も受け入れることや「やってみます」等のチャレンジ精神が必要。
- ・周りがしっかり見えているかどうかを見ている。他者への気遣いができる学生を優先的に採用している。
- ・コロナ禍で表情が見えない時代の中で生きてきたため、コミュニュケーションが取れない学生が多い。そのため、留学生・日本人学生共 に求めることは、チームワーク(協働性)能力の高い人材を選考している。
- ・学校教育から一歩踏み出した経験を重視している。例えば、アルバイト、部活、ボランティア等での活動を多く経験している人材をマストとしている。
- ・面接では、ガクチカ、志望動機を必ず尋ねる。その際、物事を体系的に整理して筋道を立て、回答する学生を採用候補者とし選考している (ロジカルシンキング)。また、忍耐力があり逆境に耐えられる人材を望む。
- ・会社説明会終了後、先輩社員との交流会を開催している。その際、社内に溶け込めやすい人材か、周りに気配りや思いやりがあるかどう かを見極めるようにしている。